

「ナガサキ原爆写真展」



昨年度の長与町(県立大学シーボルト校、JR長与駅)に続き、本年度の「ナガサキ原爆写真展」を、時津町役場本庁舎2階ロビーで8月4日～6日の3日間開催した。会場には被災写真52枚を展示、会期中多数の町民が訪れ、写真に見入っていた。



時津と長崎原爆

昨年の長与展では一般的な写真だけだったが、今年は写真資料調査部会が所蔵する、時津関連写真4枚を展示した。この写真は原爆写真を多数撮影した地元カメラ店主・小川虎彦さんの写真で、時津国民学校、村立時津青年学校、時津警察署の3枚、それに原爆投下当時、治療所として多くの負傷者を救った町内の真宗寺院・万行寺の写真である。(写真は万行寺住職が快く提供してくださった)

原爆当時、時津町はまだ時津村の時代、村内在住者は五、四三人であった。(町制施行は昭和二六年十二月一日から)。原爆による村内の家屋被災は一部損壊またはガラス破損が



多く、大破三二戸、一部破損四九六戸、ガラス窓破損三六四戸、全村戸数九一五戸の大部分が何らかの被害を受けていた。(長崎原爆被災誌)なお村内の負傷者は四九人

(長崎で被爆した村内の人を除く)、長崎市に隣接している時津村には、投下直後から負傷者が次々に運び込まれ、村内の国民学校、萬行寺、時津警察署等は臨時の救護所となり、地元民も協力し救護活動が行われた。原爆写真には見慣れている町民の人たちも、時津町関連の写真を見るのは初めてだったらしく、説明文、写真に熱心に見入っていた。【堀田武弘】

芳名碑はその方が生きていた証しです

八月九日、市内で最多の芳名が記録された旧三菱兵器大橋



原爆慰霊祭

工場跡地の慰霊碑前で原爆慰霊祭が挙行され、被爆写真展(8.日～15.日三菱・昭和寮内)が同時開催された。

三菱長崎造船所員
犠牲者一、二六九名
三菱長崎兵器製作所員
犠牲者一、七二七名
(所員とは、徴用工・女子挺身隊も含む)
学徒報国隊員(造船兵器)
合計の犠牲者一、二三七名
原爆犠牲者芳名総数
計四、二二三名

昭和寮、現在の長船を支える学卒寮生が集い生活するこの地は、旧三菱長崎兵器製作所跡地で、真珠湾雷撃用魚雷誕生の地であり又、原爆被災の地、寮生はそこに住んでいます。彼等に被爆の惨たらしい実相を伝え、核兵器廃絶と恒久世界平和建設への努力をお願いしたい。【室園久信】



昭和寮構内での写真展

県外原爆写真展（北九州市）

北九州市小倉北区の北九州芸術劇場（リバーウォーク北九州5階）を会場に9日から17日まで「ながさき原爆展」（北九州市主催）が開催された。市制四十周年記念行事として昨秋から周到な準備がなされ、この種の企画としては充実した内容となった。会場では被災写真や資料の展示の他、長崎原爆に関する数本のビデオが常時放映され、関連書籍が自由に読めるコーナーも設置された。北九州市では日頃の平和教育や記念行事を通じ市民の原爆への関心も高く、当時から知るお年寄りから幼児まで、様々な世代の市民が訪れ、長崎の惨状に見入っていた。主催者によれば、土日は各日千五百人を数える盛況で、会期中の来場者は五千人前後に上る見込み。市内にあった旧陸軍小倉造兵廠が当初の原爆投下目標であったことは市民にも周知され、「この被害が自分の街だったら…」と切実な思いで見

る来場者が多かったようだ。当時^{B29}迎撃部隊に所属していたという八〇代の男性が「長崎の方には申し訳ないと思うが、生き残れてよかった。平和が一番です」語る姿が印象的だった。

【松田 斉】



「ながさき原爆展」会場内



旧陸軍小倉造兵廠
“防空監視哨”

平和案内人へ現地講習

7月5日（土）、平和案内人の班研修が実施され、深堀部会長らが原爆資料館から山王神社まで、約2時間のコースの解説を担当した。被爆直後の写真を使い、現在の風景と比較しながら当時の状況を説明した。



松山町交差点にて

参加した平和案内人にとって、過去幾度となく修学旅行生と共に回った場所だが、被爆当時の写真を見つつ現地を訪れることで、より鮮明に被害の状況を把握し、当時を実感出来た様子だった。「今日の収穫を是非、ガイドに役立てたい。」との感想も聞かれ、有意義な時間を過ごしたようだ。



山王神社にて

ジョー・オダネル写真展

故オダネル氏の妻・坂井貴美子さんが長崎市に寄贈した写真46点のうち、20点が原爆資料館で展示され（7月16日～8月30日）、坂井さんの代理として長男のタイグ・オダネル氏が16日会場を訪れた。オダネル氏の『焼場に立つ少年』はあまりにも有名なが、その他『廃墟の兄弟』なども当時の人物写真は少く貴重であり、風景写真も、被災状況が確認でき資料的価値が高いものが多い。



会場でタイグ氏は、社会科学見学で訪れていた市内の中学生に興味を示し、写真を見た感想を尋ねていた。

生徒たちと話し笑顔に触れることによって、平和を実感したようで、「いろんな人へ君たちから平和を伝えてほしい」と語っていた。



8月2日、テレビ朝日開局五十周年記念特別番組として『原爆〜63年目の真実〜』が放送された。米戦略爆撃調査団が撮影した、被爆3ヶ月後の映像に登場する少女の消息を尋ねる内容で、深堀部会長が撮影場所の特定などで協力、出演した。

